

活動報告：ぶんぶんひろば

1、活動のねらい

ぶんぶんひろばは平成26年度に5年目を迎えた。このひろばのねらいは主に3つある。1つ目は就学前の子どもとその家族を支援することである。近隣の子育て家族への子育て支援という地域貢献は重要なねらいである。また、2つ目は、学生の教育への活用である。このセンターが位置する広島文化学園広島 長束キャンパスには、大学に1学部2学科、短期大学に3学科があり、それぞれの学科の目標を達成するために、このひろばの存在が大いに役立っている。子どもたちの生き生きとした反応を体験できる機会として非常に貴重であり、授業への活用は年々増加している。絵本の読み聞かせのサークルなども利用している。子育て家族の協力は本学の教育に大きな貢献となっている。さらに、3つ目は、子育て支援に関する研究である。特に組織としては全体的な研究を進めにくい状況ではあるが、各学科から選出された運営担当教員は個々の研究課題を抱え、今後に向けて準備を進めている。

2、活動の内容

(1) 地域貢献としての活動

ぶんぶんひろばの地域への提供は平成26年度で5年目を迎えた。25年度は耐震改修工事で4・5月を休止したが、26年度は例年通り4月から2月まで実施することができた。参加の状況を表1に示す。特別に広報活動は行っていないが、ホームページが定着し、口コミやミニコミ誌等の広報により、近隣の子育て家族によく知られるようになった。平均して一日に約18組の来場があった。

(2) 教育における活用

①授業での活用の実態

今年度も広島 長束キャンパスにあるすべての学科が、このひろばを利用した。学芸学部子ども学科の「造形表現」、音楽学科の「演奏活動Ⅰ・Ⅱ」、短期大学コミュニティ生活学科の「日本語表現Ⅰ」、食物栄養学科の「栄養指導各論実習Ⅱ」、保育学科の「家庭支援論」などの授業科目での活用があった。音楽学科の授業「演奏活動」で実施される「子どものための音楽会」では、「物語の音の世界」「ゆかいな演奏会」「冬の演奏会」「クリスマスPOPコンサート」等が実施された。「演奏活動」での音楽体験は子どもたちが日頃あまり体験できない、貴重なものである。「造形表現」で行われる活動や使われる素材は、家庭での遊びや体験に繋げることができるものである。これら活動は好評である。また、食物栄養学科の「栄養指導各論実習」の際には、託児ボランティアとして子ども学科の学生が参加した。保育を学んだ学生が託児をしたということもあり、料理教室も託児も好評であった。

②その他の活動

サークルの利用では、短期大学の「保育技術サークル」の活動があげられる。毎週火曜日の昼休み利用し、手遊びと絵本の読み聞かせを行っている。



食堂での食事の際に使用するために準備したお食事クッション

(文責：短期大学 保育学科 田頭 伸子)

表1 平成26年度の実施回数と利用状況

月	2014/ 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2015/ 1月	2月	合計
実施回数	5	8	8	10	2	2	9	8	6	7	6	71
利用組数	61	116	168	241	48	37	208	163	100	82	81	1284
平均利用組数	12.2	14.5	21.0	24.1	24.0	18.5	23.1	20.4	16.7	11.7	13.5	18.3
利用者数	子ども	83	158	217	311	62	48	257	200	119	110	1642
	大人	61	118	169	242	48	38	210	164	100	83	1293
	合計(人)	144	276	386	553	110	86	467	364	219	193	2935